
何か持ってる人達

迷鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何か持つてる人達

【Nコード】

N7951P

【作者名】

迷鳥

【あらすじ】

一度は思ったことがある、そんな迷いを書いています。

キーワードは「幸せに迷いましょう」

「お前、何か持ってるよな？」

そう言われた男は、

「お前こそ、何か持ってるよな？」

言われた男にそう返した。

二人は互いに手ぶら、見た限りではどちらも何も持っていない。

だが二人は、お互いにお互いに、

「何か、持ってるよな？」

と言い合っていた。

その、何かとは……

「知りたくない？ その、持っている何か」

そこに一人の少女が会話に入ってきた。

妙な格好をした少女だ。特に頭に被る帽子は、身を包む服と同じ

縦や横の線が多く書かれた、まるで迷路のような模様 柄

をしていた。

「さつきから聞いてれば、何か持ってる何か持ってる何か持ってる何か持ってる。その何かがよく分かってないんでしょ？ 二人揃って」

さらりとひどいことを言ったが、二人の男は、

「そうだ、だがこの男は必ず何か持ってる」

「そう、この男は何か持っているんだ」

互いを指さしながらそう言った。

「あーもう、なんでワタシの担当はこんな変な奴らばっかりなのさ！」

少女は憤慨したように地団太を踏んだ。

「とにかく！ その持っている何かを分かるようにしてあげなさい！」

そう言って少女が取り出したのは、虫眼鏡だった。

「これを通して人を見ると、その人が持っている何かを見通すこと

ができるの でもね、それを隠している、あるいは気付いていない
というのが条件なんだ」

虫眼鏡を目にあて、男達を見た。

「ふむふむ……うわ、どっちもどっちってやつだね」
うわー、と妙な顔をした。

「どちらも凄い保険金だね。どっちも同じだけ凄い金額、これがア
ナタ達共通で持つてるもの」

女の子はピンと指を伸ばして、片方の男を指し、

「アナタは、すごい病気を持つてる」

もう片方を指して、

「アナタは、すごい健康的な体を持つてる。これはどちらが長生
きするかは确实だね」

そう、二人は互いに互いにかかっている金を狙っていたのだ。

そしてその言葉を聞いた持病持ちの男はがっくりとうなだれ、健康
持ちの男はガッツポーズで喜んだ。

「これで悩みは解決したよね

それじゃ、行き

止まりまで、お幸せに」

妙な言葉を残して、女の子は去って行った。

その後、二人の男は亡くなった。

先に死んだのは

健康持ちの男だった。

持病持ちの男は、よく病院に行き、その病の治療に専念、早期に見
つかったために、難を逃れることができた。

逆に健康的な男は、自分はいつまでも健康だと思いあがり、病気に
なったことに気付かず。その病におかされて死んでしまった。

男が亡くなった後、その金は持病持ちの男に渡されたが、病気の治療費で全てを使ってしまう。

結果として、どちらも互いの持っていた何かを手に入れることは無かったのだった。

「別に誰かが何かを持ってるからって、それを他人が手に入れられるとは限らないし、ましてや、それに本人が気づくのかも分からないよね」

でもね

何か持ってるよね？

(後書き)

流行語大賞を見ていて思いついた話です。

おそらく、自分も何か持っています。

だから、あなたも、何か持っていますよね？

感想及び評価、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7951p/>

何か持ってる人達

2011年1月4日01時54分発行